

健康一口メモ

仙台市医師会
広報委員
川村 和久

テーマを見て難聴はわかるにしても、あれ？どんな病気と首をかしげたくはらず。ムンプスとはおたふくかぜ（おたふく）のことで、正式名称は流行性耳下腺炎です。さて、おたふくと難聴には、どんな関係があるのでしょうか。

この理由は後で説明するとして、まずはおさらいをしておきましょう。おたふくの原因はムンプスウイルスで、飛沫により感染します。潜伏期は2〜3週間、幼児と学童を中心に流行します。かかったのに症状が出ない不顕性感染が多い（30〜40%）のが特徴です。症状は唾液腺（耳下腺・顎下腺）の腫れと痛みで、時に顔が変形するほどひどく腫れることがあります。約半数に発熱がみられ、唾液腺の腫れは1週間から10日ほど続きます。合併症には無菌性髄膜炎、精巣炎（睾丸炎）等があります。「おたふくにかかるとたね無しになる」との俗説がありますが、その原因は急性精巣炎です。子供がおたふくに罹患後に、父親にうつり精巣（睾丸）が腫れて痛むという流れです。精巣炎は学童や成人に多くみられますが、不妊症の可能性はあるにしても頻度はそれほど高くはありません。

ムンプス難聴

さて、ここからが本題です。難聴とおたふくの関係は知らない方がほとんどでしょう。おたふくにかかると音を感じる神経が破壊され、片耳（まれに両耳）が聞こえなくなるものがムンプス難聴です。従来は数万人に1人ぐらいの珍しい合併症とされていましたが、最近では1000人に1人程度が難聴になることがわかってきました。さらに日本耳鼻咽喉科学会による調査（2015〜2016年）では、348人が難聴となり、300人近くの後遺症（両耳難聴は16例）が残っていることが明らかになりました。この難聴には治療法がなく、おたふくの重さとは無関係に起こります。先に述べた不顕性感染でも、難聴になってしまうことがあるようです。

おたふくかぜも、以前本コーナーで紹介したVPD（ワクチンで予防できる病気）のひとつです。子どもがかかる感染症に大人がかかる一般的なものは重くなり、おたふくも同様です。子どもはもちろんのこと、大人もすでに予防接種を受け、おたふくだけでなく、難聴、無菌性髄膜炎や精巣炎を予防しましょう。



／青葉区高松

被災地支援特別融資【事業資金】

スーパー・グレードアップV

500万円 2.50%
(変動金利)

幅広い
事業資金ニーズを
サポートします!

創業支援・
業種転換資金

事業資金・
資金繰り支援

1年間元利金の
返済据置

※1年経過後にご返済が開始
(返済方法はオーダーメイドで、
ご相談に応じさせていただきます。)

担保・保証人
不要

お客様のご要望に
スピーディーにおこたえます!!

※ご返済の試算額については、お客さま相談係
または窓口にお申し出ください。
※お申込に際し当金庫所定の審査基準がございます。
(詳しくはお問い合わせください)

うれしいこと、一緒に。
杜の都信用金庫